

生涯スポーツ学部で学ぶみなさんへ

～学部長からみなさんへ～

生涯スポーツ学部

学部長 増山尚美 Naomi Mashiyama



生涯スポーツ学部は、スポーツや健康に関する理論や実践について探求し、主体的・活動的・健康的な生き方を実践・支援できる人材を育成し、生涯にわたってスポーツに親しむことができる健康で豊かな「生涯スポーツ社会」の構築に貢献することを目的に、平成21年度に開設しました。平成26年4月にはその趣旨を受け継ぎながら、今後の北海道の高齢化や過疎化という地域課題に向き合う人材の育成を目指して、「スポーツ教育学科」と「健康福祉学科」の2学科制がスタートしました。健康福祉学科においては、本学が平成9年に開設した人間福祉学部によって培ってきた、福祉・介護の人材育成のスキルを最大限に活かし、福祉と健康運動・スポーツという二つの教育資源の統合による幅広い人材の育成を目指しています。皆さんはそれぞれスポーツ教育学科第9期生、健康福祉学科第4期生となります。

近年スポーツへの関心は広がりを見せています。

文部科学省は「新たなスポーツ文化の確立－全ての人々にスポーツを！スポーツの楽しみ・感動を分かち、支え合う社会へ－」を目指して、平成22年8月に『スポーツ立国戦略』を策定しました。更に、翌23年8月には『スポーツ基本法』を制定し、スポーツの価値や意義、スポーツの果たす役割を示し、スポーツを推進する国及び地方公共団体の責務などを明らかにしました。

スポーツ基本法の前文には次のように記されています。

スポーツは世界共通の人類の文化である。

スポーツは心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足の獲得、自律心その他の精神の滋養のために個人でまたは集団で行われる運動競技その他の活動であり、今日、国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものとなっている。スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であり、全ての国民が自発性の下に、各々の関心、適性に応じて、安全かつ公正な環境の下で日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、またはスポーツを支える活動に参画することが出来る機会が確保されなければならない。

スポーツは次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと共同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである。

本学部ではスポーツや健康、さらには福祉領域の理論や実践について探求し、人々の主体的・活動

的・健康的な生き方を支援できる人材を養成します。

各分野の基礎を幅広く学び自分の適性を見極める1年次の勉学を経て、2年次からは選択したコースや分野ごとに専門性を深め、人々に生きがいを与えられる専門家を目指します。学部の専門教育では実社会に役立つキャリア形成を目指して、実践的な研究や技術の習得に努めることになります。本学部はそのための教育研究と実践の手段を皆さんに提供します。

平成25年4月には大学院生涯スポーツ学研究科が開設され、より専門的教育研究分野への進学も可能となりました。本学部で4年間学んだ後、スポーツおよび福祉に関する様々な分野の専門的指導者や研究者として、あらゆる分野で活躍することを期待しています。

■スポーツ教育学科

子どもから高齢者まで、学校教育から競技スポーツまで、運動を通して心身の健康づくりを行うとともに、誰もがスポーツに親しむことができる「生涯スポーツ社会」の実現を目指します。スポーツや身体活動を通して、生涯の多様なシーンで主体的に活動できる実践力を養います。

■健康福祉学科

北翔大学ではこれまで、福祉・介護の専門職を数多く養成してきました。更に北海道の超高齢社会に対応するため、既存の福祉・介護の領域に新たに健康・運動スポーツをプラスした「健康福祉」という学科を創設し、新しい時代の幸せを生み出します。

生涯スポーツ学部の3つのポリシー

○ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

生涯スポーツ学部（以下、「本学部」という）は、スポーツ教育学科と健康福祉学科の2学科からなります。本学部は生涯スポーツ社会の実現を目指し、スポーツ・健康、福祉・介護分野の学びを通して、幅広い世代の支援者として、主体的・活動的・健康的な生き方を実践できる能力を身に付けた以下の学生に、「学士（スポーツ教育学）」「学士（健康福祉学）」「学士（介護福祉学）」の学位を授与します。

- (1) 幅広い教養と豊かな人間性をもとに、実践的コミュニケーション力により、多様な人々との関係づくりと協働を可能とする総合的な力を備えている。
- (2) スポーツや学校教育、健康・福祉等の分野や社会の中で生まれる事柄に取り組むための科学的な知見と客観的な判断力を備えている。
- (3) 培った知識・技術を活用してスポーツや学校教育、健康・福祉の分野や地域社会の様々な活動に取り組むための実践者としての指導力・組織力を備えている。
- (4) スポーツや学校教育、健康・福祉の分野における専門的職業人としての素養を身に付け、保健体育教諭、競技者、スポーツトレーナー、健康運動指導士、社会福祉士、介護福祉士などになるための基礎的な能力を備えている。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

本学部の教育課程は、スポーツや健康・福祉の分野における専門的職業人の養成を目指し、基本的理論の修得と演習・実習等による実践力を育成するカリキュラムとなっています。さらに、学生の関心領域の広がりによって学科横断的な履修や他学部の関連領域への発展的履修も可能となっています。そのことにより、学生は、自己が描く専門職像に適した幅広い教養と専門性を備えることができます。

カリキュラムの基本的な構成は次の4群です。

- (1) 幅広い教養と就職に必要な社会人基礎力を養成する科目群（全学共通科目・就業力養成科目）
- (2) 自己の専門的領域を深めるための学際的科目群（発展科目）
- (3) 自己の専門的志向を確認する基礎的な科目群と基礎学力を養成する科目群（学部共通科目）
- (4) 各自の選択した専門領域を深める専門的な科目群（学科専門科目）

○アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本学部は、生涯スポーツ社会の実現を目指してスポーツ・健康、福祉・介護という視点から、人々の生き活きとした生活をサポートする人材の養成を通して地域社会の発展に貢献することを目的としています。そのためには、スポーツ・健康、福祉・介護の分野において実践的指導者となるような以下の資質を備えた人たちを求めます。

- (1) 高等学校の教育課程を修得し、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。
- (2) スポーツ・健康・福祉・介護分野に関心があり、この分野を通して地域社会へ貢献したいという情熱を持っている。
- (3) 保健体育教諭、健康運動指導士、スポーツトレーナー、社会福祉士、介護福祉士などの専門的職業人を目指している。
- (4) 知的好奇心が旺盛で何事にも主体的に行動できる。
- (5) 課題等に対して積極的に取り組もうとする意欲がある。
- (6) 他者との相互理解をはかり人間関係を円滑に保つことができる。

教育文化学部で学ぶみなさんへ

～学部長からみなさんへ～

教育文化学部

学部長 浅尾 秀 樹 Hideki Asao



教育文化学部は、教育学、芸術学、心理学のそれぞれの専門領域の特質を生かしつつ横断統合した学部です。生涯学習システム学部と人間福祉学部においてこれまで展開してきた教員養成機能と芸術デザイン・対人援助分野における職業人養成機能をさらに充実・発展させ、「学校教育」の分野や様々な「文化」の分野、心理面での「対人援助」の分野で活躍できる実践的で幅広い視野を持つ人材を養成していきます。それは、未来を担う子どもたちの教育に関わり、地域社会の様々な文化・芸術活動の発展に貢献し、人間理解と対人援助に力を注ぐ実践能力を身につけた人材を養成するものです。

教育文化学部は、既設の生涯学習システム学部学習コーチング学科（小学校教諭・幼稚園教諭・特別支援学校教諭の養成）と生涯学習システム学部芸術メディア学科（美術、メディア、インテリア建築、音楽、服飾美術、舞台芸術の6分野）、そして人間福祉学部福祉心理学科（臨床心理・福祉カウンセリング、養護教諭の養成）の3学科に、人間福祉学部医療福祉学科の精神保健福祉の分野を含め、それぞれの専門分野を分割再編して、新たに教育学科・芸術学科・心理カウンセリング学科の3学科として充実・発展させた学部です。

教育学科は、学習コーチング学科に芸術メディア学科の中学校・高等学校音楽教諭と福祉心理学科の養護教諭の養成機能、さらには保育士養成を加えて、幼児・児童・生徒への教育を担う人材養成を総合的に行う学科です。

芸術学科は、既設の芸術メディア学科のアート・デザイン分野を再編成し、芸術5分野（美術、メディアデザイン、インテリア建築、服飾美術、舞台芸術）を幅広く、かつ職業人としての専門性を深化させ得る学科です。

心理カウンセリング学科は、既設の福祉心理学科の臨床心理分野・福祉カウンセリング分野に医療福祉学科の精神保健福祉分野を加えて、一人ひとりの人間生活を心の面から包括的に支える人材の養成を行う学科です。

教育文化学部は、教育分野、芸術分野、心理分野の3学科の特性を活かしつつそれらが連動し、学部の保有する教育力を駆使して専門分野を横断する総合的な学習の機会を提供します。これにより、総合力や応用力を身につけることが可能となり、地域社会の「教育力」「文化力」「心の豊かさ」を担う

広く地域文化の活性化に貢献できる専門職業人、高い専門性と総合性を兼ね備えた優れた実践力を持つ人材を養成していきます。

現代は“総合的な「知」が求められる時代”であるといわれます。社会の変化に対応していくためには、“自ら課題を見つけ考える力、柔軟な思考力、身につけた知識や技能を活用して複雑な課題を解決する力、そして、他者との関係を築く力に加えて豊かな人間性等を含む総合的な「知」”が必要です。変化の激しい時代を生き抜き、一個の人間として自立し力強く生きていくための基盤を、本学部においてぜひ身につけてほしいと思います。

教育文化学部の3つのポリシー

○ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

教育文化学部（以下、「本学部」という）は、教育学、芸術学、心理学のそれぞれの専門領域の特質を活かしつつ横断統合した学部です。本学部での多様な学びを通して、幼児教育・学校教育から生涯学習にいたる幅広い世代の学びへの支援の観点を踏まえつつ、社会と関わり、時代のニーズに応え得る能力を身に付け、各学科での所定の単位を修得した以下の学生に、「学士（教育学）」「学士（芸術学）」「学士（心理カウンセリング学）」の学位を授与します。

- (1) 専門的な知識を総合的な実践力へとつなげ、教育現場や関係諸機関・企業、そして広く地域社会において、教育文化の継承・発展に寄与する専門職業人としての力を備えている。
- (2) 豊かな人間性と柔軟な思考力をもち、高い専門性と実践力を身に付け、幼児や児童・生徒の生活や学び活動を支援できる能力を備えている。
- (3) 幅広い芸術文化の基礎理解と確かな専門技術を獲得し、多様な職種において芸術性を活かし、社会貢献できる能力を備えている。
- (4) 心理学及び精神保健福祉学の専門知識をもち、人間援助の総合的アプローチとしてのカウンセリングの素養を身に付け、対人支援ができる能力を備えている。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

本学部では、教育学、芸術学、心理学それぞれの学科の教育課程の円滑な運用を通して、学科専門科目、学部共通科目や発展科目など、さまざまな関連分野も含めた総合的・学際的な学びの場を提供します。本学部の教育課程では、柔軟な思考と豊かな感性そして広い教養を備えた質の高い実践的な職業人や教員が具備すべき能力を養います。さらに全学共通の基礎教育科目や全学年を貫き取り組む就業力養成科目を通して、社会人基礎力や課題解決能力の醸成など現代社会が求める能力の修得を目指します。

カリキュラムの基本的な構成は次の4群です。

- (1) 幅広い教養と就職に必要な社会人基礎力を養成する科目群（全学共通科目・就業力養成科目）
- (2) 自己の専門的領域を深めるための学際的科目群（発展科目）
- (3) 自己の専門的志向を確認する基礎的な科目群（学部共通科目）
- (4) 各自の選択した専門領域を深める専門的な科目群（学科専門科目）

○アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本学部では、未来を担うこどもたちの教育に関わり、地域社会のさまざまな文化・芸術活動の発展に貢献し、人間理解と対人援助に力を注ぐ実践能力を身に付けたいと考える以下の人材を求めます。

- (1) 高等学校の教育課程を修得し、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。
- (2) 教育学、芸術学、心理学に強い関心があり、自ら課題を見つけ能動的に学修して専門性を身に付けようとする意欲がある。
- (3) 幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭、養護教諭、中学校・高等学校教諭（音楽・美術）、保育士、学芸員、インテリアプランナー、建築士、認定心理士、福祉心理士、精神保健福祉士、産業カウンセラー、社会教育主事などの専門的職業人を目指している。
- (4) 幼児・児童・生徒の視点に立ち、豊かな人間性と柔軟な思考力をもち、高い専門性と実践力を身に付け、教育現場で活躍したいという意欲がある。
- (5) 美術、メディアデザイン、インテリア建築、服飾美術、舞台芸術などの芸術分野に興味があり、芸術を通して成長し、創造性を活かして社会で活躍したいという意欲がある。
- (6) 自分自身の理解、自分を取り巻く他者の理解、人と人とのかかわり合いの理解について深め、心理学と精神保健福祉学の専門知識を人々の人生をより豊かにするために活かしたいという意欲がある。